

静岡県庵原郡蒲原町北方の地質

野 島 宏 二*

卒業研究として、蒲原町北方の地質を調査したので、その概要を報告する。

本地区の地質構造は既に井上春雄・大塚彌之助・沢村孝之助等、諸氏の御調査があり、ここでは大塚博士の命名された地層名を用いた。

(地形) 蒲原町北方には二～三段の平坦面を残す海拔200m内外の丘陵性の山地を構成する蒲原礫岩層が分布する。南流する数本の小溪がゴルジをなして発達し複雑な地形を呈している。その北方には大丸山・金丸山の円頂丘を載く海拔300m～500mに達する山地が発達し、ここでは蒲原礫岩層を覆う岩淵安山岩熔岩、碎屑岩が分布する。

駿河湾に面する海崖下に街村が発達し東海道が通じている。

(地質) 糸魚川静岡地質構造線から東、富士川までの庵原山地は新第三紀及び第四紀の堆積岩、火山岩類から成る。由比町よりはほ南北に走る入山逆断層を境とし東側に鮮新世後期の堆積とされる蒲原礫岩層が分布する。

蒲原町の城山では、この蒲原礫岩層を貫ぬく角閃安山岩体があり、その捕獲岩塊として化石を産する城山層(中新世)が知られている。

蒲原礫岩層は洪積世の初期の噴出と推定される岩淵火山噴出物によっておおわれている。

岩淵火山噴出後同じく洪積世古期に松野方面に内湾ができ鷺の田礫層が堆積した。

(1) 蒲原礫岩層

本層は砂礫岩層よりなり東部は走向N20°W傾斜7°Wの善福寺断層で岩淵火山岩と接し、東北部は走向N60°W傾斜7°SWの断層で岩淵火山のシソ輝石安山岩熔岩と接し、北西部444.8m山の下では岩淵火山の玄武岩質熔岩流によって不整合におおわれている。

また海拔390mの高山は角閃安山岩よりなり蒲原礫岩層中に貫入した一岩株である。

蒲原礫岩層の西辺は入山逆断層によって切られ西方の浜石岳礫層と接する。

* 教育学部4年生

蒲原礫は径3～5cm程度の円磨度高く淘汰のより円礫とその間の灰白色凝灰質砂の基地より成りやや硬化固結し層理を有する。

礫質は砂岩，緑色砂岩，珪岩，頁岩，閃緑岩，岩，角閃安山岩等から成る。

この地塊に分布する蒲原礫層の礫の粒径及び原岩はほとんど均一であるが一部入山部落附近の上部で巨礫岩の堆積を見る。

蒲原礫層は国道由比川橋附近から東北東に一つの背斜軸を作りほそ長いドーム状の構造を形成している。その右翼善福寺断層附近では，走向 $N 20^{\circ} E$ 傾斜 $70^{\circ} E$ となり，走向傾斜は神沢の102m山北北東1km附近ではほぼ水平になるまで順次変化していく。左翼では林香平附近で走向 $N 60^{\circ} \sim 70^{\circ} E$ 傾斜 $40^{\circ} N W$ となるまで順次変化して入山逆断層に終わっている。

本層の露出している部分の厚さは約1500m～2000mに達する。

また本層の中に小断層の発達を見るが大局的な構造に影響をあたえていない。

本層は鮮新世末期の古富士川川口附近に急激に堆積が行われた結果生成したものと推定される。

化石は本層の中に三ヶ所炭化した年輪のある漂流木片を砂層中より発見したが樹種その他未決定である。

善福寺附近の本層上部の礫層中に挟在している厚さ約1mの一枚の凝灰岩層が蒲原礫層堆積中に行われた火山活動を示し，礫層の基質の凝灰質砂の起源を解く手掛りになるかもしれない。

蒲原礫層の下底はこの地域では不明である。

(2)貫入岩類

城山角閃安山岩 この岩体の露頭は蒲原町城山の西北麓溪谷底によく見られる。灰白色で緑色角閃石を沢山含み，シソ輝石，普通輝石の斑晶が見られ，汚れた長石の斑晶も見られる，角閃石は一部分解している。

高山角閃安山岩，林香平北方にある390mの円頂丘の独立した岩体で城山安山岩よりやや塩基性なものである。やはり角閃石が分解しかかっている。

堰沢岩脈群，角閃安山岩，玄武岩質安山岩と含オリーブ石玄武岩質安山岩の三種類に分けられ，いずれも $N 30^{\circ} \sim 40^{\circ} E$ の方向に延びる岩脈として出現し節理がよく発達している。このうち角閃安山岩は草色角閃石が多く安山岩としては塩基性のもので，巨晶角閃石の中心部はから色角閃石になっている。一部Opacitizationを受けている。この岩脈の中には径2cmぐらいの巨晶角閃石

や所によってそれが集まって径10cmぐらいの塊状を呈するものもある。一岩脈では全体が粘土質に変化していた。

又含オリーブ石玄武岩質安山岩は普通輝石、オリーブ石を含む、シソ輝石は非常に少ない。変質物として方解石、緑泥石、沸石類等を含む。この岩脈は接触面の礫層を硬化させているが他の岩脈は礫層に殆んど影響を与えていない。貫入方向は南北方向である。

(3) 岩淵火山噴出物

岩淵火山初期噴出物はシソ輝石安山岩集塊岩であって石基はガラス質で見かけ黒灰色を呈す。

蒲原礫層とは主として断層で接し、凝灰質部分と固い岩のモザイク状をなし、すぐ北方で集塊岩と接する。

岩淵火山熔岩のうち複輝石玄武岩の熔岩流は節理をもち、高山の444m山の麓の谷で不整合に礫層をおおっているのが観察できる。

(4) 城山層

蒲原町の城山の一小区画に露出する城山層は蒲原礫岩層を貫ぬく城山角閃安山岩の岩株の中に孤立している。

凝灰質砂岩又は凝灰質石灰岩で早くから化石の産出によって注目されていた。

(5) 結論

I、本地域の蒲原礫層は一つの背斜構造をなす。

II、蒲原礫層の化石は炭化した木片が三ヶ所から発見されただけで、これによる層位の決定はできない。

III、蒲原礫岩中の岩脈は岩淵火山噴出物より古く活動したものと推定される。

IV、岩淵火山噴出物は蒲原礫層を不整合におおう。

最後に本調査に当り終始懇切なる御指導を給った鮫島輝彦助教授、竹内正辰助教授に厚く謝意を表す。

文 献

今野円蔵：大塚彌之助：静岡県由比川富士川間の地質，地質学雑誌46，1933

井上春雄：富士川下流流域の地形，大塚地理学会論文集II上，1933

井上春雄：富士川下流地域の地質概観，地学雑誌46，1934

大塚彌之助：静岡県蒲原町城山角閃安山岩体内の斑晶の配列方位とその解釈，
地質学雑誌 54， 1938

大塚彌之助：静岡県庵原郡東部の地質構造，地震研究所彙報 16， 1938

津屋弘達：富士山の南西麓大宮町周域の地質，地震研究所彙報 18， 1940

蒲原町北方の地質図

